

受講番号 19070 学校名 甲浦中学校 氏名 長谷川 智子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年生 生徒数 21名
 科目名 1年生 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 NEW HORIZON ENGLISH COURSE 1

クラスの様子・特徴

英語で話すことに関心があり、英語で表現したいと考えている生徒が多い。全体的には、明るく前向きで、意欲的に取り組める。また、与えられた事には熱心に取り組める。ただ、自主的に発表できる生徒には偏りがある。

問題の確定

音読に力を入れることで読む力を向上させることができているのか。仲間同士が関り合える学習活動を取り入れられているのか。

予備調査

A 授業の観察

集中力があり話を聞くことができる。英語に関心がある生徒と無い生徒では、英語の読みに差がみられる。自信を持って発表できる生徒は少なく、確信があれば進んで答えられる。英語が苦手な生徒でも、意欲的に取り組める授業を作っていきたい。

B 生徒による授業評価

英語に関する生徒の実態は、授業が好き(66.7%)・好きではない(33.3%)、教科は得意(66.7%)、得意でない(33.3%)となっており、話す力と英文を読み取る力を伸ばしたいと思っている生徒が多い。単語暗記が難しいと答えた生徒も多い。

C 学力データ

夏休み課題テスト71.8 2学期中間期末試験平均73.6 地道な努力が大切でそれを自覚できる生徒が増えてきている。朝学テストや復習テスト(試験前後に実施)の小テストを覚え切ることが自信に繋がっている。

リサーチ・クエスチョン

生徒が生き生きと学習ができ、話す力をつけさせるにはどのようにすればよいだろうか。

仮説・実践・検証

仮説1

授業の冒頭で、ビンゴゲームや単語テスト、単語(句)に関する活動を行えば、楽しみながら語彙力がつき、自信にも繋がっていくだろう。

実践1

①覚えてもらいたい英単語[語句]をビンゴ形式にした。②単語に関してボードゲームを行った。③毎日ノート1ページに英単語[語句]や文を書くことを家庭学習とし点検を行った。④ゲームや表現力に関する活動の際には、グループ学習で取り組んだ。

検証1

①ビンゴ形式で単語を覚えることが役に立っていると81%の生徒が思っている。②勉強になっていると答える生徒が、教師の想像以上に多い。③95%の生徒が毎日提出でき、内容も工夫をして提出する生徒が少しずつ増えてきている。④教え合いの形をとることで学習への意欲が高まり、進んで活動にも取り組み、楽しいと感じられる勉強へと繋がっていくことができています。

仮説2

新出文型を中心とした、覚えたい表現を盛り込んだ文の練習を行うことで、話すことに自信がつき、文法の定着にも繋がるだろう。

実践2

①学期前半は、教科書を使ってペアで日本語から英語、英語から日本語が言えるように練習を行った。②学期後半は、教科書に出てくる英文を基に、Conversation Practiceシートを渡した。(ペアで各2分ずつ練習をさせた。また、内容に会話表現を多く取り入れる等、身近に感じられる英文を意識して取り扱うようにした。)

検証2

①を②の前段階として取り組んだ結果、英文を覚えこむのに抵抗が無くなってきた。②ペアでの学習が、協力により成立していることを意識し取り組める生徒が増えた。楽しみながら学べることで、指示を出さなくても適切な声を出して練習ができていた。会話に喜びを見いだせる生徒が増えたが、一方では、文構成への学習や説明、準備が不十分なため語順に不安を感じる生徒も増えた。

仮説3

本文の音読練習を工夫することで、英語の語順も身につく、読みの力も伸ばせるだろう。

実践3

①ペアで教科書の音読練習を工夫して行った。(個人練習、ペア練習、グループ読み、シャドーイング、制限時間読み、荀読み、対話読み等)②教科書本文暗記を目標としたプリントを用意し個人、ペア等で練習させた。また、学期途中よりチャンクを取り入れた。(a.英文を見ながら音読 b.()を見ながら音読 c.日本語を見ながら音読)

検証3

①音読練習が好きで、楽しく勉強になると思っている生徒が増えた。(とても思う81%、少し思う9%)②声に出して読むのに慣れてきて()や()内の一部の文字を見て言う練習方法に意欲的に取り組む生徒が増えた。ただ、ペアでの音読音量が、一斉体形の個人指名では若干弱く、自信を持って発表できる生徒が増えたとは言えない。語順の定着には至っておらず、チャンク学習、その他の工夫した取り組みの継続が必要である。

研究の成果

3つの仮説全体に共通してグループ学習を取り入れてきたが、この学習方法を続けることが個々の英語力向上に大いに繋がっていると感じた。導入当初は不人気だった音読練習も、グループで楽しく協力して取り組めたことで、音読の大切さを大抵の生徒が理解することができた。また、音読練習後では、一斉時の質問に進んで答えられる生徒の数が増えた。英単語[語句]ビンゴは家庭学習の内容を扱いポイント制にして取り組んだことで、誰もが参加でき楽しみながら学習できる活動となった。生徒の英語力が向上するよう、今後も工夫を凝らし取り組んでいきたいと思う。

今後の授業改善の課題

音読練習では、英語を不得意とする生徒への配慮と教材の工夫に欠けたので改善を加える。覚えたい表現を盛り込んだ会話練習では、練習したことが生かされる場面設定を考える。今回の音読練習では、英文を読み取る力や語順の定着に弱さが見られたので、チャンクや音読筆写を取り入れながら、話す+書く両方の表現力を高めていく。現在52%に留まっている話すことへの自信がより伸びるよう、継続して授業改善を図っていききたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

0887-24-3103